

催涙ガスに対する防衛策

一、催涙ガスは目に赤黒氣を出さないが、皮膚や衣服等に直接作用する。時に死に至る危険な毒ガスである。催涙ガスを用いた大規模の襲撃に対しては、十分な注意が必要である。

一、ガスマスクにしないと絶対に止めないと。粉が眼に入つたら、水または市販の眼薬で洗い流す。

一、皮膚に粉末が附着した場合は、可及的手段でとにかく水に洗い流す。ただし半身浴は流し方をしてその水が体の他の部分につかま皮膚の範囲では止めた。反対に入るとには湯舟につかるが、必ず石けんを用いてよい洗い流す。

一、濃いガスの中を通過した時はウカイとする。ただし水を飲め。もと吐、下剤をとどめますので要注意。

一、吐き出すのが苦手な人にガスのしみこんでいる表薬、くつ下、靴、アオマット等は休みます。こうしたものは室内や車内等の狭い場所では置かないこと。

一、火傷の症状があらわれたら、患部を冷却にして、医師の手をうけること。(口)対、の機セニターを通して検定された病院へ行くこと。こう油煙は使わない(患部が痛みやすくなるから止める薬へ抗ヒスタミン剤)を飲んだり、塗布したりするようにして、患部を搔きくずさない。

一、ぬれたタオルやガーゼでマスクすれば、呼吸器に対するある程度の防御が可能。ただし、マスクは不要にならなければ捨てる。